第14回通常総会の席上にて、名古屋国税局長感謝状の贈呈がありました。

令和8年5月28日に開催されました「第14回通常総会」の席上にて、浅井下田税務署長から遠藤会長に、名古屋国税局からの感謝状が手渡されました。
これも、法人会活動に対する、会員皆様方の日頃のご理解、ご協力、役員皆様方のお力添えがあってのことでございます。
この場を借りまして、心より御礼を申し上げます。
今後も、「良き経営者の団体」として活動を続けて参ります。
活動に対しての、会員皆様方からのご意見などがありましたら、事務局までご連絡願います。





感謝状

一般社団法人 伊豆下田法人会殿

貴会は多年にわたり申告納税制度の普及発展と納税思想の高揚に努められ税務行政円滑な運営に多大の貢献をされましたここにその ご尽力に対し深く感謝の意を表します

令和八年五月二十八日

名古屋国税局長 端本秀夫

編集後記

今回も「伊豆の未来を繋ぐ人」のテーマで特集をさせて頂きました。
毎年、世代、業種を問わず、色んな方の人生を聞きながら、これからの夢などを伺えるこの取材の機会が、とても貴重なものとなっています。
西伊豆町でジビエ事業を展開している若者は、小中学校は引きこもり、人とのコミュニケーションが苦手…との事でしたが、今では、時に命懸けで猪や鹿を捕らえ、地域の産業として根づくよう頑張っていて、笑顔や受け答えがとても爽やかな青年でした。松崎町で焼き鳥屋を開業した若いご夫婦は、そのジビエも扱っていて、食を通じて松崎町を好きになってもらいたい！と目を輝かせていました。今までの経験をもとに、人生の第二のステージとしてカフェを開業されたご夫婦は、キャリアを十分に生かされた居場所を作られていました。キャリアを生かす…といった点では、デジタルノマドを引き込み、国際交流の中から、「下田を本当の開国の町にしたい！」と、地域にかける夢と自分の夢を重ね合わせて話してくれる人もいました。
大きな事は出来ないけど、地道に出来る事を…と、他業種にも関わらず挑戦する人、自らの経験をもとに、心身ともに健やかであるためには…と探究する人…。
それぞれがとても魅力的な方々でしたが、共通して言える事は、その取り組みの先に、周りの人の幸せ、地域の未来のために…という思いがあるという事です。
少子高齢化が進み、地方はどうしても縮小傾向に向かうことは間違いありません。
こんな時にこそ、心のどこかに、人を、町をという思いを互いに持ち合う事が、大切になってくると思う今日この頃です。

（広　報）